



平成24年度は、本学創立50周年「NEXT50」として、新たな歴史を築いてきた。同時に、国際文化学科・情報コミュニケーション学科の20周年でもありました。この歴史を記念して、これまで以上に、学生主体の、そして地域に密着したさまざまな活動を行ってきました。これらの活躍を次の後輩たちが受け継いでくれることを期待しています！



四季折々の景色が広がるキャンパス
 芸文短大のキャンパスは、自然に囲まれています。春は桜やチューリップといった色とりどりの花々、夏はすがすがしい新緑、秋は黄金色に輝く銀杏、冬は哀愁漂う木々...。移り行く季節と共に、さまざまな経験をしながら学生生活を過ごしていきまします。

芸短フェスタ2012を開催しました

本学では、毎年恒例で10月～12月までの三ヶ月間を芸術文化月間とし、県民のみならず広く芸術文化と本学の魅力を知っていただくため、「芸短フェスタ」を開催しています。平成24年度も、展示会やコンサート、舞台、講演会など多彩な行事を実施しました。

美術科

専攻科造形専攻制作展

専攻科造形専攻の学生による作品展をアートホールにて開催しました。美術コースは、社会や人、自分自身に対して思う「行方」を作品で表現し、生活造形コースは、陶、杉、竹・ガラス、竹といった素材を使い、作品を造り上げています。またビジュアルデザインコースは、「大分の地産デザイン」をテーマに、パッケージデザインやイベント企画、商品企画の作品を展示しました。

音楽科

第48回定期演奏会

音楽科の総力を挙げて取り組むこのイベントは、平成24年度で48回目を迎えました。今回は、合唱：歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」からの合唱曲、ピアノ：ブルッフとプーランクによる2台ピアノのための協奏曲、管弦楽：ローマの松を披露しました。

第51回芸短祭～Join us!～



人と人の繋がりを大切にしたい。という思いをテーマに、学生によるファッションショーや演奏会、豪華賞品が当たる抽選会、サークル・ゼミの出店など楽しいイベントで盛り上がりました！

国際文化学科

車いすで世界を走るアスリート人生

「大分国際車いすマラソン大会」のトップアスリート、ダイアン・ロイ選手、ハインリッヒ・クーベル選手、笹原廣喜選手をお招きし、パネルディスカッションを開催しました。イベント後には、お茶とお菓子を食べながら、選手達と交流を深めました。学生や一般の方々も、直に選手達と話し、触れ合って貴重な時間を過ごせたようでした。



情コミュ

マルチ写真展「保戸島を撮る～PHOTOアイランドの魅力～」

情報コミュニケーション学科1年の学生たちが津久見市保戸島の魅力を撮りためた写真展「保戸島を撮る～PHOTOアイランドの魅力～」を1週間にわたって開催しました。撮影地である保戸島での写真展に、来館された多くの島民の方々から感動の声をいただきました。



学長プロジェクト「映画と篠笛の集い」を開催しました

学長プロジェクトとは、平成21年度より、文化の資産化をテーマに本学 中山欽吾学長が自らプロジェクトする企画で、毎回、各界で活躍する著名な方々を招いて行っているイベントです。

平成24年度は、映画「種まく旅人の監督・塩屋俊さんと日本の伝統楽器・篠笛」の演奏家・狩野泰さんを迎え、映画上映と演奏会、講演を行いました。訪れた多くの学生は、イベント後も塩屋監督、狩野さんと交流を深めていました。



さまざまな公開講座を開催！

芸文短大では、本学学生はもちろん、一般の方々も聴講できる公開講座を数多く開催しています。

映画監督やトップクリエイター、音楽家など著名な方々

による講演・公開レッスンをはじめ、PC技術が取得できる講座など実にさまざまな公開講座を通して、市民のみならずとの繋がりを大切にしています。



オープンキャンパス

7月15日と9月16日に、オープンキャンパスを開催しました。当日は、台風の接近で不安定な天候の回もありましたが、全体で約800名の高校生のみならず、保護者の方々、高校の先生方に参加していただきました。本学学生の司会で進行した全体説明会をはじめ、各学科に分かれて特色あるプログラムを実施するなど、それぞれが自分達の学科についての魅力をPRしていました。

美術科

在学生による体験発表、卒業・修了制作展や授業風景のスライド上映などを行い、キャンパスライフを身近に感じることができた内容に、訪れた高校生のみならず、興味深く耳を傾けていました。



国際文化学科

学生たちによる「国際茶館」がオープン。世界各国のお茶や、茶道部が点てたお抹茶などを楽しみながら、語学体験や授業のことなど、先生や在学生たちが本学科の魅力について語りました。



音楽科

小ホールにてミニコンサートを開催。学生によるピアノや器楽アンサンブル、オペラ・ハライイトなど迫力あるステージに、みなさん目を輝かせて、大きな拍手を送っていました。また施設見学も行いました。



情報コミュニケーション学科

ミニ講義や在学生との対話でキャンパスライフを間近で感じてもらいました。また、画像編集などを行うメディア体験で実際にパソコンに触れたり、性格を探る不思議な心理体験など楽しい項目が満載でした。



文部科学省から「体験をスキルに変えるナラティブ能力育成」が特に優れた取り組みと評価されました

平成21年度に採択を受け、情報コミュニケーション学科を中心として取り組んでいる事業「体験をスキルに変えるナラティブ能力育成」について、本学の取り組みが特に優れていると認められました。これは、平成21年度全国応募64

9の取り組みのうち採択は96件、そのうち書面調査によって特に優れており、波及効果が見込まれると判断された本件を含む16件についてさらに現地調査が行われ、認められたものです。

学長が2年に進級、卒業する皆さんに向けて

皆さんにキャリア・プランニングの授業でお話しした中にも、二つ重点がありました。その一つが「人間万事塞翁が馬です。このお話には「目の前のことにこだわると、かえって将来困ることがあるよ」という教えを含んでいるのですが、今の皆さんがどう読み取るかということが大切です。

私が言いたかったのは、いま見通せる世界はまだまだ狭いということ。自覚して、その狭い視野から見た景色だけで自分の将来

を決めるのは待った方がよい。何をやっても、自分の軸足さえしっかりしていれば、すべてがもつろの重点である「右脳の引き出し」に収まるのだと信じて行動すれば自信が生まれる。そのことが就職前の心構えになるといいことです。さあ、一緒にまっすぐ前を見て自信を持って進んでいきましょー。



学長 中山欽吾